

十年後、十五年後を見つめて リーダーに必要な教養と人格を育む

2013年
7月12日
取材

一貫教育の成果

「相模原中等は活気ある学校ですね。それに素直な生徒が多い。感心したのは、相手の意見を聞いたうえで自分の意見をしっかりと伝えることです。中一からそういう力を育てているからでしょう」とは、今年着任した副校長の上前先生。相模原中等の前期課程は「読書・暗唱・ドリル」「発表・質疑応答・レポート」「探究・ディベート」の3つのメソッドを柱とした授業を展開しています。総合的な学習の時間に位置づけられる相模原中等独自の「サイエンスチャネル」、県立中等2校で行われている「かながわ次世代教養」なども、生徒の表現コミュニケーション能力を高める機会となっているようです。

それでは、中等5年生の授業から見学を始めます。西棟の1階が5年生の教室、コミュニケーション英語IIIの授業では、先生の流ちょうな英語に負けじと男子生徒が「英語らしい」話し方で質問に答えています。そのやりとりはまさに英会話。中一から培ってきた英語力を実感しました。「前期課程では音読や会話などの学習機会も多く、英語への恐怖感を持っている生徒はいませんね。4年生では長文を要約して英文で記述させるサマリーにも、しっかり取り組んでいます」と着任して3年目を迎えた加賀校長先生。中高一貫教育ならではの英語指導と言えます。

「知識の活用力」そして「気づきの力」

隣の教室は数IIIの授業。数IIIは理系進学希望者には必須の科目です。中等5・6年は「発展期」に位置づけられ、進路希望に応じた選択科目を履修する単位制です（4年次も単位制）。次学年の履修科目は夏休み前に希望調査を実施、担任の先生と相談しながら決定していきます。加賀校長先生は「卒業単位数は74単位なので、午後は授業がない時間割にするのも可能ではありません。その余裕をむしろ生かし、生徒一人ひとり違う『強み』を伸ばすための、あるいは弱点を補うための自由選択科目の履修にあてさせたいですね」

5年生の多くは国公立大進学を志望しているそうです。その実現に向けて校長先生は「知識の活用力」の大切さを挙げています。「国公立含めいわゆる難関大で求められる力は、知識を組み合わせて解く力、知識の総合化です。センター試験には詰め込みで間に合うかもしれませんが、知識の活用力を伸ばすには時間がかかります。6年間かけてしっかりと育てたいですね」

もう一つ挙げられたのが「気づきの力」です。「教わるのが中心だった前期課程から、自ら進んで学習する姿勢へと変化するには「気づきの力」が大切です。これは教科内容でも、学習方法でも言えます。たとえば数学なら〇〇くん、英語なら〇〇さんというように、目標になる仲間がいるものです。そして彼らと自分の違いに気づき、それを自分の学習に生かしていく。この、お互いを高めあえる人間関係を構築できるのも、1学年160名の集団で6年間

一緒に過ごす本校の強みの一つです。

人として大切なものを育てる

西棟を出て1年生の教室がある東棟へ移動します。体育を終えた1年生が教室に戻ってきました。相模原中等は「ノーチャーム制」のもと5分前行動を指導しています。友だちとはしゃいでいた生徒も英語授業が始まる前には着席し、机の上には教科書が用意されています。ところが元気なあいさつの後、英語の先生から提出物を出していない生徒がいるとの厳しい注意が。激戦を勝ち抜いた生徒たちですが、一つひとつのよう指導され成長するというのを実感した場面です。加賀校長先生は「時間を守る、整理整頓、あいさつ」というのは、人が信頼されるための大きな要素で

す。いくら知識があるうと有名大学を卒業していようと、これらが備わっていないければ本場のリーダーにはなれません。リーダーとは、人から信頼され任されてはじめてなり得るものです。そこを本校は大切にしていますし、これからも続けていく大切な指導です」

教室には「団結力があるためチームワークが良く協力、分担できる」など、クラスの良いところ、伸ばしたいところが書かれた模造紙がはられています。仲間や集団を大切に作る姿勢作りがうかがえます。

「クラスの団結力を感じるのには芸術祭の合唱部門ですね。伴奏者、指揮者といったそれぞれの役割に全力を傾け、それは素晴らしいハーモニーを奏できます。部活動や生徒会活動にも積極的に参加しています。学

校行事は生徒の育つ貴重な機会ですし、学校生活にはそういった彩りも大切です。確かに勉強は大変かもしれませんが、決して勉強一辺倒の学校ではありません」と加賀校長先生。学校パンフレットのQ&Aには「(宿題は)かなりの量をこなす必要があります」と明記されていますが、教科書を使った勉強もそして行事やクラス活動を通じた広い意味での勉強も、おおいに学ぶことのできる6年間であるとあらためて感じました。

相模原中等での学びを通し10年後15年後のなりたい自分の姿を描き、その第一歩として望ましい大学進学を実現する。1期生の成果が形になるまであと1年半です。最後に加賀校長先生からのメッセージをご紹介します。訪問記の結びとします。

最近多く聞かれるようになった「リベラルアーツ」。語源をたどればローマ時代、ローマ市民として必要な学芸を指す言葉です。学校の基本はそこにあると思います。社会人として必要な教養・知識を身に付ける場が学校です。その教養は苦勞して初めて身に付くもので、「コピペ」のレポートをいくら作っても力にはなりません。6年間苦勞しながら自分と向き合い将来の自分の像を作ってほしいと思います。さまざまな分野にチャレンジして自分を成長させたいと思う子にとって、そのチャンスがたくさん用意されているのが、本校です。



神奈川県立相模原中等教育学校
第二代校長 加賀大学 先生



2009年 2010年 2011年 2012年



【右】2年生の英語授業。教科書の会話文を演劇風に発表。生徒は発表者の発音などを採点する。
【上】東棟には4年生まで、西棟に5年生の教室。「一足制」だが校舎はきれいに清掃されている。
【左】開校初年度から毎年訪問している相模原中等。前期課程では発表や暗唱など活発な授業が展開。後期課程に入った2012年の写真は4年生の数学授業。習熟度別のクラス編成できめ細かに指導されている。



DATA 神奈川県立相模原中等教育学校

- 所在地
神奈川県相模原市南区相模大野4-1-1
TEL (042) 749-1279
FAX (042) 740-2852
- 募集/男女80名ずつ計160名
- 学区/神奈川県内全域
- 選考
適性検査I・II、グループ活動、調査書
- access
相模大野駅北口エスカレーターを降り伊勢丹、中央公園を横切り徒歩約10分

